

兵庫県版

日本の息吹

兵 庫 版
 第二〇五号 平成三〇年(皇紀二六七八年)
 十一月二二日発行 日本会議兵庫県本部事務局
 六五〇・〇〇一五 神戸市中央区多聞通三・一・一
 兵庫県神社庁内 (〇七八・三四一・一一四五)
 HP <https://www.nipponkaigyogo.org/>
 メール nipponkaigyogo@gmail.com



《第二十四回

《全国戦歿学徒追悼祭齋行》

全国戦歿学徒を追悼する會

快晴の好天に恵まれ、十月二一日



の午前、戦歿学徒記念「若人の廣場」(南あわじ市阿万大見山)に於いて全国戦歿学徒追悼祭が齋行された。大東亜戦争で出陣又は軍需工場等に動員され亡くなられた、二〇萬人余の男女学徒の御霊を慰霊するため建立された同廣場にて、終戦五〇年を迎へた平成七年から齋行され今年で二四回目となる。昭和一八年一〇月二一日に東京・明治神宮外苑陸上競技場で出陣学徒壮行會が開催された縁故に因り開催してゐる。

阪神淡路大震災による被災など、諸般の事情により平成七年より閉鎖されてゐた「若人の廣場」は、荒廃を極め大変憂慮される状況が長く續いたが、南あわじ市並びに兵庫縣を始め復興を願ふ方々のご努力により、平成二七年三月一五日に都市公園として再開された。

追悼祭では近畿各地より参加した青年神職が祭典を奉仕し、永田秀一會長と兵庫縣知事(代理)が追悼文を奉讀し、海上自衛隊徳島教育航空群徳島航空基地喇叭隊の「悲しみの譜」「國の鎮め」「水漬く屍」三曲

が吹奏された。次いで、香淳皇后より賜はった御歌による「みたま慰めの二人舞」を山口縣・朝田神社宮成眞澄權禰宜と香川トモコさんが奉納した。尼崎市・福田寺榎尾亮順住職他による般若心經讀經、キリストの幕屋の方々による讚美歌「飛翔・暁の翼」「海行かば」奉唱なども奉納された。

今年日は曜日の開催日に當ったこともあり、キリストの幕屋の方々や学徒と年齢を同じくする生徒たちの参列を呼びかけて、中高生約五〇名の参列があつた。教義宗派を超へ多くのご來賓の方々を迎へて、總勢二〇〇名の参列のもと嚴肅裡に齋行された。

齋した後、兵庫縣神社廳副廳長の垣田宗彦湊川神社宮司と、毎年祭典を奉仕する神道青年全國協議會を代表して神道青年近畿地區連絡協議會の上野潤副會長の挨拶があつた。

式典の後、ホテルニューアワジ・ブラザ淡路島に會場を移して總會を開催した。一二〇名余が出席し、來年の第二五回追悼祭は御代替の奉祝

《 10月22日以降の日本会議兵庫関連団体の主な催物 》

- 11月25日(日)三島忌(時間未定,長田神社)
 - 12月 9日(日)14時:神戸支部總會(15時講演:講師:東郷宏重先生(元海上自衛隊(一佐),東郷平八郎元帥曾孫),会場:長田神社参集殿)
 - 1月14日(月・祝)街頭活動(神戸)
 - 2月 11日(月・祝)天皇陛下御在位30年をお祝いする県民の集い・建国記念の日を祝う会(神戸,姫路)
 - 7月7日(日)女性の会教育講演会(生田神社)
 - 7月15日(月・祝)日本会議兵庫県本部總會
- 未定部分は、決定次第最新号でお知らせいたします。

諸行事の都合により、来年のみ一月三〇日（水）に齋行することなどを採択した。その後、淡路市遺族會の谷忠義會長の發声による献盃では、終戦七三年を迎へて、「行く末の礎とならん」と散華された學徒の御靈を追悼し、緊迫不安定の度を増す東亜細亜情勢下にあつて我國の行く先を案じ、さらなる平和を希求することを誓ふと述べ、高らかに杯をあげた。

今年中高生の姿もあつて多くの有志が相集ひ、世代を超へて哀悼の眞心を捧げた。今後も追悼の儀式を繼續することが今に生かし生かされる者たちに与へられた責務であり、永遠の祈りの場とすることを御靈前に誓ひ午後二時半頃散會した。



《自衛隊ありがとう》

キャンペーン

近畿女性の会

十一月三日、好天に恵まれながら、近畿各地より集つた三〇名余の女性達が梅田にて行いました。

「憲法に自衛隊を明記することに、賛成か、反対か」というボードを持ち、道行く人にシールで回答してい



ただく街頭調査を担当しましたが、設問の意味がわからず『具体的にどういうこと？』と尋ねられる方が多かったのが印象的でした。

中には「自衛隊＝戦争」という思い込みをされている方もおられました。それは違うと周りの女性陣の細かな説明を受けると、「それなら賛成」と自分で貼られた反対のシールを剥がし、賛成のシールを貼り直されていきました。

長年刷り込まれてきた戦後教育の呪縛は重いかもしれませんが、その鎖は決して断てぬ物ではないことを実感した瞬間でした。



私達のことが見えぬ様に振る舞う方もいらつしやいました。傍を通りながらこちらをじーっと見つめる人が多いように感じました。

そして一度目が合うとスツとそばに行き、語りかける女性達。その言葉に耳を傾ける人が多いと思つたのは私だけでしょうか。

私達を静かに守ってくださった男性陣がいらつしやらなければ、異なる意見の方々による妨害を受けていたかもしれません。女性ならではの雰囲気と明るさは、今後の国民投票に向けて必要不可欠であると認識を新たにしました。

